

# 関係団体ヒアリング結果のまとめ

# 資料3

## 1 分野別の意見

	(1)理解と交流	(2)保健・医療	(3)療育・教育	(4)雇用・就業支援	(5)安全・安心な生活環境	(6)情報提供・相談支援体制	(7)差別の解消及び権利擁護	(8)自立した生活支援
<b>坂出市身体障がい者団体連合会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身体障がい者が出席する会議や市の催場で、バリアフリー、エレベーター等に配慮されていないことがある</li> <li>特に公共施設の階段には両側に手すりをつけてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療費が高騰しているが、障がい年金は数年間変わっていないため、社会情勢を考慮してほしい</li> <li>福祉年金、福祉サービス等の情報周知をしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金銭面もそうだが、日常生活を送る上でのサービスを充実してほしい</li> <li>支援を受けるためのものは、全て申請制度になっており、親がすべてを抱えこみがちなので、行政が訪問する等状況把握をするべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市が関係機関から企業への就職を斡旋する仕組みを作してほしい</li> <li>ハローワークとの連携</li> <li>さまざまな分野での指導者の育成</li> <li>企業が障がい者雇用の目標を達成していない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者用駐車場に駐車する一般人に対する罰則や注意が必要。車いす用にスペースを広くとってほしい</li> <li>障がい者用トイレは多目的トイレでもあるため、本当に必要な利用者かどうか判別がつけにくい</li> <li>店の警備員、従業員への障がい者駐車場に関する啓発が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護の観点から、団体に障がい者の情報が入ってこない</li> <li>障がい者手帳交付時などに、チラシ配布等団体の情報を伝えてほしい</li> <li>障がい者団体が情報発信を行うには限界があるため、市が率先して行ってほしい</li> <li>障がい者同士の横のつながりを作りたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい者を理由とする学校や会社でのいじめがあり、障がいの有無に関係なく、罰則を作るなど厳しく対応してほしい</li> <li>S N Sによるいじめなど、立証が難しい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者に比べて、子どもや若年者に対する支援が薄いので充実させてほしい</li> <li>障がい児を持つ親がなかなか声を上げにくい場合に、状況把握にくい</li> <li>民生委員でも家庭の事に深く関わるのは難しい</li> </ul>
<b>特定非営利活動法人中讃聴覚障害者協会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手話に対する理解と、聴覚障がい者に対する理解を深めることを目的とする、子どもから大人まで楽しめるイベントの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>病院に手話のできる看護師がほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新生児の相談の場を、医療機関だけでなく、障がい者団体、支援学校を紹介してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ハローワークに行っても手話のできる人がいないので、手話協力員を置いてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障がい者向け、緊急避難情報通知システムとして、光と文字で災害発生情報を表示してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行っていません</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急時に音声のみの案内ではなく電光掲示板などで知らせてほしい</li> <li>手話が広まると情報も得られて暮らしやすくなる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障がい者、高齢者の支援手話コミュニケーションのとれるデイス、グループホームを設立してほしい</li> </ul>
<b>香川県中途失聴・難聴者協会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障がいは見た目ではわからないため、必要とする支援や配慮に気づかれにくく、理解されにくい</li> <li>コミュニケーションが困難になるため、引きこもりになりがちになる難聴者もいる</li> <li>公的機関等主催のイベントに手話通訳者と要約筆記者の派遣を望む</li> <li>香川県要約筆記者養成講座の受講者の募集と、「耳マーク」掲示に積極的に取り組んでほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療機関では意思疎通が十分にできていないことが多い</li> <li>医療機関では音声認識機器を利用する、パソコン文字表示や筆談することを願いたい</li> <li>電光掲示板や文字案内が有効で、スピーカーの声は聞き取りにくい</li> <li>医療従事者に対し、障がい者への配慮とコミュニケーション方法など知識を高めてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉を獲得する年代に聴覚障がいがあると、その子のコミュニケーションに支障をきたし、学力面などで困る面が出てくるため、当事者と家族への積極的な支援を希望する</li> <li>日常生活用具購入費の給付にFMマイクなど補聴援助システムを加えてほしい</li> <li>水泳では補聴器を外すため、ホワイトボードなどで配慮が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中等度難聴者の就労について、障がい者枠に準じた労働条件で働けるよう企業に働きかけてほしい</li> <li>企業に対し、中途失聴・難聴者への対応の仕方への啓発を願う</li> <li>ハローワーク等の関係機関との連携</li> <li>手帳所持者ではないが、健聴者と同じように働くことが困難な人への就労支援</li> <li>障がい者個々に合わせた心理的サポート、仕事内容への配慮</li> <li>職業訓練で会社でのマナー等学ぶ機会を与える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中途失聴者・難聴者、加齢性難聴の高齢者にとって地域とつながりにくい面があるため、各自治会、民生委員への理解と啓発、周知が必要</li> <li>公共交通機関等の情報の見える化の推進</li> <li>公共施設のWi-Fi整備</li> <li>災害時の避難所での要支援者の把握、障がいの特性に応じた物資の備蓄等に関する情報提供</li> <li>必要に応じて要約筆記者を派遣</li> <li>総合支援法による助成の「お知らせランプ」は健聴の家族がいると支給されないが、家族が不在、病気時に困る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要約筆記者は認知度が低いので、個人派遣ができることを周知してほしい</li> <li>要約筆記依頼方法を市のHPで周知し、メールやFAXでもできるように利便性の向上をお願いしたい</li> <li>手帳所持者ではないが、聞き取りが困難な中等度、軽度難聴者の人のための就労支援、相談窓口を設けてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>聴覚障害者は手話ができるイメージがあるが、実際は1割程度で他は手話が解せない中途失聴・難聴者であり、正しい理解と啓発の推進が必要</li> <li>各種問い合わせ先に電話番号のみ記載が多いが、FAX、メールアドレスを表示してほしい</li> <li>市役所職員の研修、積極的な意識啓発を行う</li> <li>当団体では、要約筆記者養成講座や様々な行事など、市民への啓発や聴覚障がい者への支援活動を行っているため、市にはこの福祉活動を理解し、継続できるようサポートを願う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>坂出市在住の活動できる要約筆記者が現在1名のみなので、要約筆記者を増やすことが必要</li> <li>身体障害者手帳を所持できない中程度難聴者に対する補聴器購入の助成</li> <li>重度難聴者が装着する人口内耳は高額なため機器買い換えの助成金のアップを望む</li> <li>身体障害者手帳所持の条件は両耳難聴なのに、総合支援法による補聴器購入補助は片耳のみであるため、両耳補聴器使用で語音明瞭度に効果がある人には両耳同時に補聴器購入補助をしてほしい</li> </ul>
<b>坂出市手をつなぐ育成会</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講演会等に障がい者の家族がいない人達に参加してもらい、家族の苦勞などを理解してもらうことができた</li> <li>団体の活動を伝える場や興味を持ってもらえる場が少ない</li> <li>他団体の活動内容がわからないので、障がい者の各団体が協力して啓発活動を行っていくのが良いと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>知的障がい者は自分の病状などを説明できない</li> <li>療育手帳の判定は、障がい特性を深く考えてランク分けをしてほしい</li> <li>障がい者ひとり親家庭では18歳以降の医療費控除がなく生活が苦しくなる</li> <li>生命保険等に加入できないため将来が不安。障がい者を対象にした共済保険のようなものがほしい</li> <li>障がいに対応している病院のリストアップ</li> <li>医療機関にも正しい理解が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかりとした療育機関が無く、事業所任せの療育では、しっかりとした療育ができないのではないか</li> <li>放課後デイは障がいの特性がわかっていないままあずかる場所もある</li> <li>養護学校幼稚部は定員が少ない</li> <li>社会に適応するための準備が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業が望んでいる行動がとれないため、企業の障がいへの理解が重要</li> <li>事業所の理解を深めるセミナー、団体との交流</li> <li>ジョブコーチ不足</li> <li>企業との間に入るところがうまくいっていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>移動支援ができるヘルパーが圧倒的に少ない</li> <li>使用できる公共交通機関が少なく限られているため使いづらい</li> <li>駅や最寄りのバス停に行くのが不便</li> <li>乗り換えがわからず不安</li> <li>目的地に行くための公共交通機関が少ないので利用できない</li> <li>移動支援は、坂出市では自宅から自宅までの支援なので、臨機応変にならないか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談支援専門員の多くは利用者が利用（契約）する事業所が多く、利用者に寄り添う支援ができていない</li> <li>障がい者に有益な情報が届いてこない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平等に支援したとしても、障がいの特性によって平等が公平とならず、差が発生することが差別につながっていくことがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障がい特性に対応できる入居施設やグループホームが少ない</li> <li>事業所と利用者が契約するようになったが、対等な立場ではなく、事業所側に有利な現状となっている</li> </ul>

	(1)理解と交流	(2)保健・医療	(3)療育・教育	(4)雇用・就業支援	(5)安全・安心な生活環境	(6)情報提供・相談支援体制	(7)差別の解消及び権利擁護	(8)自立した生活支援
坂出市精神障がい者家族会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族として病気について理解していることが最も重要だと思う</li> <li>・その結果医者との関係、団体としての活動が果たせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ悩みを持つ者同士が会を持ち、問題を話し合ったりすることが大切</li> <li>・病状は自己申告しないと精神疾患以外の事は病院では診てくれない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この分野について研究の場を持ち、会を広げることが重要</li> <li>・情報交換の場がたくさんあるとよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用については広く活動できていない</li> <li>・精神の重度の人は就労が難しい</li> <li>・本人の希望と企業の要望がマッチしない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業所では職員や施設で十分な管理を行っている</li> <li>・精神障がい者には公共交通の割引がない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報提供がまだまだ不十分と思われる</li> <li>・市では、ひきこもりの人など全ては把握できていないと思う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人々、近所の人々の理解が不十分で大変</li> <li>・精神障がい者に対する偏見などがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済支援については、身体、知的、精神障がい者に対する国の施策が一定ではない（公共交通機関の運賃など）</li> </ul>
坂出市発達障がい児(者)親の会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が参加できる講演会や研修会が少ない</li> <li>・スポーツイベントや体験会がない</li> <li>・パラスポーツが理解促進のきっかけになる</li> <li>・文化芸術活動を体験する場がほしい</li> <li>・イベント等の場があっても、その情報が探しづらい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健、医療従事者でも発達障がいの特性を理解している人は少ないため、スキルアップを求めたい</li> <li>・合理的配慮を求めたいが、理解が進んでいない</li> <li>・早期療育を推進するためにも、健診のあり方とフォローアップ体制をより強固なものにしてほしい</li> <li>・市内に障がい児(者)専門の歯科が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内には専門職の療育を就学後も受けられる機関が無く、継続的なソーシャルスキルトレーニング等は二次障がいを予防する観点からも必要</li> <li>・市内の小中学校には通級指導教室や特別支援学級の整備はされているが、学校や教師の質の格差が大きいと、早急な是正と支援員の増員が必要</li> <li>・大きくなってから気づくとどこに相談すればいいかわからない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障がいのある人は、社会の中で健常者と同じように就業している人が多くいるが、困難を抱えても相談先が無く、二次障がいを発症してから病院にかかるケースもあるため、日頃から障がいの知識のある相談支援員のような存在に気軽に相談できる場を作ってほしい</li> <li>・企業にも周知してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学支援や余暇活動の充実のために移動支援の利用を希望しても、事業所の空きが無いので改善を求めたい</li> <li>・期限付きでなく、継続して利用できるようにしてほしい</li> <li>・福祉避難所を開設する際には、別室やクールダウンスペースの確保など、発達障がいのある人のQOLを維持するために必須であるため、配慮をしてもらいたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者手帳を持たない発達障がいの人にとっては、相談窓口や支援体制は希薄なため、気軽に相談できる窓口を作ってほしい</li> <li>・障がいのある当事者だけではなく、保護者も生きづらさや困難を抱えている人が多いのが発達障がいの特徴であるため、弊団体の活動の周知にも今以上のご尽力を頂きたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障がいの特性はなかなか浸透しておらず、いまだに誤解を受けやすい障がいであるため、啓発活動が必要</li> <li>・幼少期や学童期の頃から発達障がいについて知ることは重要であり、保護者のPTA活動の一環で講演会を開催し、身近に障がいを持った人がいること、特性の理解は差別解消につながる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービス全般の分野において、手帳を持たない発達障がいの人(子)は利用できるサービスや経済的支援がほとんど無いと、他の項目でも記したように、成人しても継続して受けられる療育と、気軽に当事者や保護者が相談できる場の早急な整備を求める</li> </ul>
精神・利用者より直接聞き取り		<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神科に定期的に通院している</li> <li>・施設によっては入院環境が悪く、年配の方が放置されていることもある</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済面で困っている人が多い</li> <li>・事業所への障がいに関する教育・啓発を進めてほしい</li> <li>・事業所の責任者だけでなく、従業員にきちんといきわたるように啓発してほしい</li> <li>・ハローワークと当事者の間に入る人材(就労支援の人材)が不足している</li> <li>・常勤で正社員が理想だが、最初はパートで入って慣れてから正社員という働き方が理想</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家からグループホームに通っている。いつ来てもいいため、自由度が高い</li> <li>・生活の中では、規則正しい生活、人に話を聞いてもらうこと、趣味の時間を大切にしている</li> <li>・交通機関の割引が身体にはあるが精神にはない</li> <li>・外出の際に初めての場所に行くのが不安な人もいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院のケースワーカーから福祉に関する情報を得ている</li> <li>・家族や友人、事業所等に相談しているが、相談相手は少ない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身は障がいがあることで差別を受けたことはない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの利用意向はない</li> </ul>

## 2 障がい者支援活動や坂出市の施策について

	障がい者支援活動の問題点や課題				坂出市の福祉施策について	
	活動上の問題点や改善すべき課題	コロナ禍での活動への影響	これから力を入れていきたい活動	行政に対する要望	重点的に取り組むべき課題	計画策定への意見
坂出市身体障がい者団体連合会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化、役員の成り手不足</li> <li>・新規会員の入会が少ない会の存続が難しい</li> <li>・指導者を育成すべき</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事ができなくなった再開しても閉じこもりがちの人に、再度出てきてもらうのが困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規会員の募集</li> <li>・休会している分会の復活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の障がい者の情報を開示してほしい</li> <li>・市から手帳取得者に団体のPRをしてもらいたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市から新規障がい者手帳取得者の家庭訪問をするなどして、直接課題を把握してほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・免許返納後のリハビリなどの送迎</li> <li>・重度視覚障がい者への対応（音声のみで利用できるものなど）</li> </ul>
特定非営利活動法人中讃聴覚障害者協会				<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における手話の普及手話への理解を促進し、手話を学ぶ機会及び手話に触れる機会の確保に努めるものにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市長広報動画に、手話通訳の導入</li> <li>・市広報誌に手話に関する情報の掲載</li> <li>・手話に対する理解と聴覚障がいに対する理解を深めることを目的とする子ども、大人も楽しめるイベント</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政機関等の手話講習会の実施</li> <li>・小中学校への出前手話講座の実施</li> <li>・地域での防災訓練に、聴覚障がい者に対応する避難誘導訓練や避難所での対応の実施</li> </ul>
香川県中途失聴・難聴者協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化、会員数の減少役員たちはほぼボランティアで活動</li> <li>・社会的に難聴についての正しい理解が進んでいない聞こえの課題について講演会等を市民公開という形で周知していきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ障がいを持つ人同士の交流を企画してきたが、コロナ禍により交流や研修、地域への啓発活動も大幅に制限された</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耳の障がいに関する啓発活動を通して社会への理解を深めるとともに難聴者の社会参加の機会を作る</li> <li>・引きこもりがち難聴者をなくすために、聞こえの日常生活に役立つ知識を得る機会を増やしていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設のバリアフリー化とWi-Fiを整備、今後新たな公共施設が建設される際には情報支援機器を完備し、当事者にチェックさせてほしい</li> <li>・市役所の各課においての筆談対応や耳マークの掲示、補聴機器使用</li> <li>・聴覚障がい者に対する緊急避難指示の誘導、防災対策の見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共施設、苦痛期間、イベントなどの音声情報の視覚化</li> <li>・要約筆記者養成・派遣事業やインターネット接続など情報保障の充実化</li> <li>・中途失聴者・難聴者への正しい理解と啓発の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これからも引き続き当事者団体も積極的に関わられるようお願いしたい</li> </ul>
坂出市手をつなぐ育成会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の高齢化により会員数の減少で個別の支援ができていない</li> <li>・会員数を増やし、育成会の活動を活発にしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に変わらないが、福祉バスの利用ができなかったことで、レクリエーションや施設見学ができなかった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災に関する活動は継続していきたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々変化する情報をフィードバックする体制を構築してほしい</li> <li>・縦、横の連携の充実が必要</li> <li>・コミュニケーション条例は必要な人に情報を伝えてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい特性の理解と啓発活動</li> <li>・各種関係機関との連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このアンケートの各団体の意見を開示してもらいたい</li> </ul>
坂出市精神障がい者家族会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者であってもそうでなくても留意すべきところは同じ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後とも感染していくことのないようにしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで以上に障がい者に対する支援を強めてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政として上から下の者まで一致して活動にあたってほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいについてそれぞれの特性にあった取り組みをしてほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時、避難場所のグループホーム等に避難できず、一般の人と同じ場所に避難する必要がある時は、市が場所等を考慮してほしい</li> </ul>
坂出市発達障がい児(者)親の会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弊団体は障がい当事者ではなく、保護者の支援をしているが、周知が行き届いておらず、必要とされている方々をつなぐににくい状況にある。行政だけでなく、医療機関や学校教育の現場にも積極的に周知活動をすべきと考えている。保護者のニーズに寄り添った活動ができるよう模索している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の3年間はほぼ全ての活動を休止した。コロナ前には月に1度の座談会や研修会、年に1度の講演会を開催していた。現在座談会や研修会を徐々に再開しているが、以前参加しておられた方が新しい生活様式になったためか、参加人数は以前ほど多くはない。必要とされる方がいる限り継続していく考えである</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座談会や研修会を継続して開催し、そこで上がってきたニーズを拾い上げて活動に生かしていく</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・周知活動へのご協力を引き続きお願いしたい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切れ目なく続く療育体制の確保</li> <li>・市民への啓発活動</li> <li>・手帳を持たない障がい者への支援体制の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他団体と情報共有するためこのアンケートへの開示をお願いしたい</li> </ul>